

1 拠点概要

1-1 プログラム概要（ミッション・ステートメント）

文部科学省グローバル COE プログラム 「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学）

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY GLOBAL COE [CENTER OF EXCELLENCE] PROGRAM DIGITAL HUMANITIES CENTER FOR JAPANESE ARTS AND CULTURES, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

新しい日本文化研究の創出に向けて

——「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」について——

21 世紀の学問はどうあるべきでしょうか？

インターネットをはじめとする情報技術の成熟によって、学問・研究の世界でも、時間や距離といった制約が大幅になくなり、さまざまな価値観が世界中に溢れ出しました。その結果、大学という制度が大きく揺らぎ、学問という知の枠組みが問い直されています。人文科学研究も、もちろん例外ではなく、現在、まさに重大な岐路に立たされていると言えるでしょう。

その危機的な一例として日本文化研究が挙げられます。なぜ、危機的なのかというと、日本文化研究においては、世界における日本文化研究者が研究のネットワーク型展開を推進しているのに比べ、日本における日本文化研究者は、日本にいる故、かえって研究を孤立させてしまう、というねじれ現象が起きているからです。このような世界と日本における大きなギャップを、今、乗り越えることができなければ、おそらく日本文化研究という学問領域は、世界レベルと日本レベルというダブルスタンダードの前で閉塞を余儀なくされることでしょう。

われわれは、その前身である 21 世紀 COE プログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」（2002～06 年度）において、質・量ともに国内トップレベルを誇る京都や日本文化に関わる有形・無形文化財のデジタルアーカイブが国際的な情報発信の拠点（ポータルサイト）としてきわめて有効であることを証明しました。

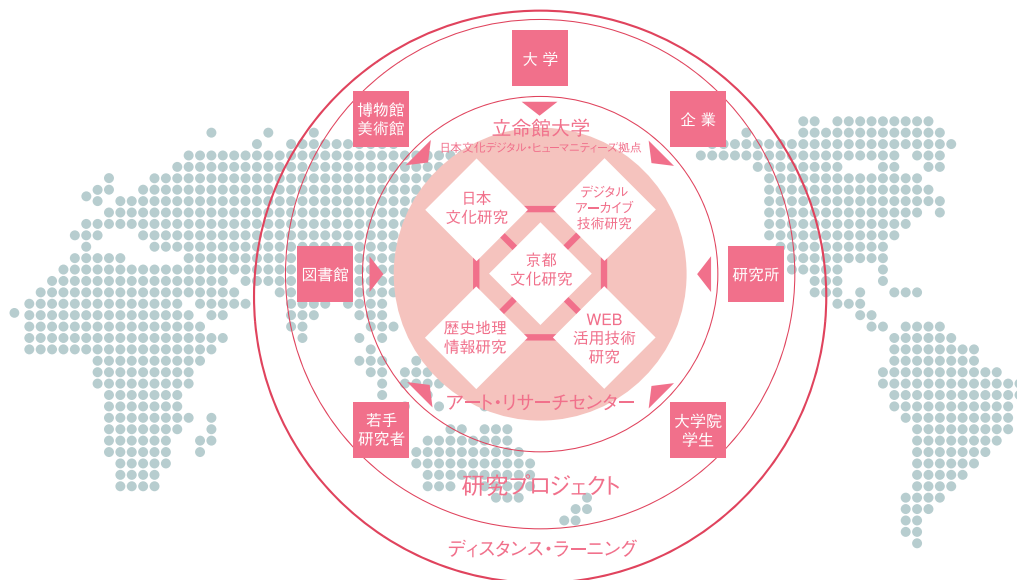
その成果を引き継いだ本拠点では、この歴史都市・京都を舞台に、人文科学と情報技術のさまざまな分野の研究者が参加・連携する、世界の最先端の研究動向を踏まえた多くの研究プロジェクトを組織し、さらに研究を深化させるとともに、これまでの人文科学が対象とすることができなかったモノやコトを研究対象に加えることで、全く新しい研究成果を生み出しつつあります。

また、教育の拠点として、グローバルな視点を持ち、国内外の別なく研究活動ができる新しいタイプの日本文化研究者の育成を目指し、分野横断型の「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム」を新たに実施するとともに、若手研究者が海外の研究者と共同で研究を行い、その成果を発表することを積極的に支援しています。そして、その成果も着実に結実しつつあります。

こうしたわれわれの教育・研究活動は、昨今、欧米諸国の人文科学研究に興りつつある「デジタル・ヒューマニティーズ」と呼ばれる学問分野とリンクするもので、現在、相互の有効な連携を図るため、本拠点は国内外の「デジタル・ヒューマニティーズ」関連の大学、研究機関、学会とともに、教育・研究の密接なネットワーク化を急ピッチで進めています。

人文科学という学問分野のイノベーションは一朝一夕で成し遂げることはできないかもしれません。しかし、われわれは、歴史都市・京都を舞台とした日本文化デジタル・ヒューマニティーズという新しい人文科学研究によって、その端緒を必ず掴めるものと確信しております。

どうぞわれわれの活動にご注目ください。



1-2 研究 付. 研究メンバー一覧

■研究班と主な研究プロジェクト

本拠点における調査・研究は、5つの研究班によって行われました。各研究プロジェクトは便宜的にこの研究班のどれかに所属していますが、研究班の垣根を越えたメンバー構成で進められている研究プロジェクトも多数ありました。また、ポストドクトラルフェロー (PD) や研究支援者 (RA) として本拠点に所属する若手研究者たちも、これらの研究プロジェクトの中心的役割を担って、研究を進めました。

研究班と 2011 年度の研究プロジェクトは以下のとおりです。※ ()内は研究プロジェクト代表者

①京都文化研究班

- ・平安貴族の行動と見聞 —— 古典史料アーカイブ利用の試み —— (杉橋隆夫)
- ・京都における工芸の民俗考古学的研究 (木立雅朗)
- ・近代京都における映画文化とそのアーカイブス (富田美香)
- ・洛中洛外図屏風の総合的アーカイブと都市風俗の変遷 (松本郁代)

②日本文化研究班

- ・「『外地』日本語文学データベース」プロジェクト (木村一信)
- ・デジタル技術を用いた比較考古学 (和田晴吾)
- ・古典演劇情報アーカイブ (赤間 亮)
- ・日本版画・版本の美 (赤間 亮)
- ・俳諧資料の系統的研究 (赤間 亮)
- ・マルチメディア型資料アーカイブの応用と表現 (赤間 亮)
- ・「日本文芸と美術」プロジェクト (John Carpenter)
- ・無形文化財にかかわる歴史的有形文化財のデジタル復原 (古川耕平)

③歴史地理情報研究班

- ・バーチャル京都 (矢野桂司)
- ・近代期京都の歴史 GIS 研究 (中谷友樹)
- ・古代～近世京都の歴史 GIS 研究 (金田章裕、河角龍典)
- ・京都町並自動生成プロジェクト (田中 覚)

④デジタルアーカイブ技術研究班

- ・無形文化財のデジタル化 (八村広三郎)
- ・歴史的文書の文書画像解析 (八村広三郎)
- ・デジタル・ヒューマニティーズに関する研究動向調査 (八村広三郎)
- ・アーカイブ情報の可視化と物語生成 (Ruck Thawonmas)

- ・能楽等の伝統音楽デジタルアーカイブのための音響情報処理（山下洋一）
- ・歴史的文書にかかわるデジタル図書館研究（前田 亮）
- ・有形文化財の3次元物体モデリングと視聴覚提示（田中弘美）

⑤ Web 活用技術研究班

- ・協調的アーカイブ構築のための基盤システムに関する研究（稲葉光行）
- ・文化・歴史的コンテンツに基づく e-Learning システムに関する研究（稲葉光行）
- ・3D メタバースにおける研究発信と研究教育環境構築の実証的研究（細井浩一）
- ・「遊び」としてのビデオゲームの研究プロジェクト（上村雅之）
- ・ゲーム・スタディースのためのデータベース構築と活用研究（上村雅之）
- ・ゲームアーカイブプロジェクト（中村彰憲）

これら研究プロジェクトの成果については、本拠点主催による国際シンポジウムやセミナー、あるいは、各種刊行物の他、インターネットによる発信を推し進めました。また、若手研究者については、国内外での主要学会での研究発表や論文の投稿を強く奨励しました。

■国内外の協力研究機関

本拠点の研究の特長は、国内外の国内外の研究協力機関と、ネットワーク型のプロジェクト研究を展開していることです。

国内外の主な研究協力機関は下記のとおりです。

□ 国内の研究協力機関

早稲田大学演劇博物館
 財団法人 片山家能楽・京舞保存財団
 学校法人 八坂女紅場学園
 財団法人 松竹大谷図書館
 日本大学総合学術情報センター
 國學院大學日本文化研究所
 大阪府立大学学術センター（旧・大阪女子大学附属図書館）
 国立音楽大学附属図書館
 舞鶴市
 財団法人 世界人権問題研究センター
 独立法人 国立美術館東京国立近代美術館
 特定非営利活動法人 映画保存協会
 財団法人 デジタルコンテンツ協会
 任天堂株式会社

近江八幡市
京都市
財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
松竹株式会社
社団法人 関西経済連合会
日本放送協会
財団法人 祇園祭船鉦保存会
株式会社ベネッセコーポレーション
奈良大学

□ 海外研究協力機関

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 [SOAS] (イギリス)
セインズベリー日本藝術文化研究所 (イギリス)
アルバータ大学 (カナダ)
ホノルル美術館 (アメリカ)
アルザス・ヨーロッパ日本学研究所 [CEEJA] (フランス)
シェフィールド大学地理学部 (イギリス)
ブリティッシュ・コロンビア大学メディアグラフィック学際センター [MAGIC] (カナダ)
コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター (アメリカ)
ボストン美術館 (アメリカ)
大英博物館 (イギリス)
ニューヨーク大学 (アメリカ)
北京日本学研究中心 (中国)

■研究メンバー

事業推進担当者			
氏名	研究領域	所属する班など	所属・職名など
赤間 亮	日本文化史	拠点リーダー、日本文化研究班・リーダー	立命館大学大学院文学研究科・教授
八村 広三郎	画像情報学	拠点サブリーダー、デジタルアーカイブ技術研究班・リーダー	立命館大学大学院理工学研究科・教授
矢野 桂司	地理情報科学	拠点事務局長、歴史地理情報研究班・リーダー	立命館大学大学院文学研究科・教授
木立 雅朗	日本考古学	京都文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・教授
杉橋 隆夫	日本史学	京都文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・教授
富田 美香	日本映画史	京都文化研究班・リーダー	立命館大学大学院文学研究科・准教授
川嶋 将生	日本中世史	京都文化研究班	立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教授、立命館大学・名誉教授
松本 郁代	日本文化史	京都文化研究班	横浜市立大学・准教授、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘准教授
John Carpenter	日本美術文化史	日本文化研究班	ロンドン大学 SOAS・教授、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教授
木村 一信	日本文学	日本文化研究班	プール学院大学・学長、立命館大学 R-GIRO・特別招聘教授
古川 耕平	電子システム情報工学	日本文化研究班	立命館大学映像学部・准教授
和田 晴吾	日本考古学	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・教授
河角 龍典	環境考古学	歴史地理情報研究班	立命館大学文学部・准教授
金田 章裕	人文地理学	歴史地理情報研究班	人間文化研究機構・機構長、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教授
田中 覚	計算機科学	歴史地理情報研究班	立命館大学大学院理工学研究科・教授
中谷 友樹	地理情報科学	歴史地理情報研究班	立命館大学大学院文学研究科・准教授
Ruck Thawonmas	人工知能	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・教授
田中 弘美	情報通信工学	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・教授
前田 亮	多言語情報処理	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・教授
山下 洋一	音声情報処理	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・教授
稲葉 光行	ソフトウェア工学	Web 活用技術研究班・リーダー	立命館大学大学院政策科学研究科・教授
上村 雅之	電子工学	Web 活用技術研究班	立命館大学大学院先端総合学術研究科・教授

中村 彰憲	ゲーム産業論	Web 活用技術研究班	立命館大学大学院映像研究科・教授
細井 浩一	コンテンツ産業史	Web 活用技術研究班	立命館大学大学院映像研究科・教授

特別招聘教員		
氏名	所属する班など	所属・職名など
川嶋 將生	京都文化研究班	立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教授、立命館大学・名誉教授、事業推進担当者
John Carpenter	日本文化研究班	ロンドン大学 SOAS・教授、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教授、事業推進担当者
金田 章裕	歴史地理情報研究班	人間文化研究機構・機構長、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘教授、事業推進担当者
松本 郁代	京都文化研究班	横浜市立大学・准教授、立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘准教授、事業推進担当者
鈴木 桂子	リサーチ・マネージャー	立命館大学衣笠総合研究機構・特別招聘准教授

客員研究員		
氏名	所属する班など	所属・職名など
出光 佐千子	京都文化研究班	出光美術館・学芸員
上田 学	京都文化研究班	早稲田大学演劇博物館・助手
谷 昇	京都文化研究班	
張 建立	京都文化研究班	中国社会科学院日本研究所・准教授、同社会文化研究室・副室長
上島 理恵子	京都文化研究班	京都造形芸術大学・非常勤講師
佐伯 智広	京都文化研究班	神戸夙川学院大学、立命館大学・非常勤講師
Lucia Dora Dolce	京都文化研究班	ロンドン大学 SOAS・准教授
大矢 敦子	京都文化研究班	京都府京都文化博物館・嘱託職員
C. Andrew Gerstle	日本文化研究班	ロンドン大学 SOAS・教授
Ellis Tinios	日本文化研究班	リーズ大学・名誉教授
大西 秀紀	日本文化研究班	立命館大学文学部・非常勤講師
岡本 隆明	日本文化研究班	京都府立総合資料館

亀田 和子	日本文化研究班	ブリティッシュコロンビア大学・美術史学博士課程
楠井 清文	日本文化研究班	立命館大学文学部、法学部、映像学部・非常勤講師
Julie N. Davis	日本文化研究班	ペンシルベニア大学・准教授
松葉 涼子	日本文化研究班	南山大学・研究員、日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員 PD
矢野 明子	日本文化研究班	ロンドン大学 SOAS・PD
Matjaž Matošec	日本文化研究班	ユトレヒト大学大学院・博士課程、講師
Laura Moretti	日本文化研究班	ニューキャッスル大学・講師
Elena Riu	日本文化研究班	ヴェネツィア東洋美術館・館長補佐
Koch Angelica	日本文化研究班	ケンブリッジ大学大学院・博士課程
Donatella Failla	日本文化研究班	キヨッソーネ東洋美術館・館長
玉田 浩之	歴史地理情報研究班	京都工芸繊維大学総合研究センター・特任助教
磯田 弦	歴史地理情報研究班	東北大学大学院理工学研究科・准教授
井上 学	歴史地理情報研究班	平安女学院大学 国際観光学部・専任講師
松岡 恵悟	歴史地理情報研究班	立命館大学文学部・非常勤講師
高瀬 裕	歴史地理情報研究班	フリーランス翻訳家
河原 大	歴史地理情報研究班	株式会社キャドセンター
阪田 真己子	デジタルアーカイブ技術研究班	同志社大学 文化情報学部・准教授
當山 日出夫	デジタルアーカイブ技術研究班	花園大学、帝塚山学院大学、立命館大学文学部・非常勤講師
中村 美奈子	デジタルアーカイブ技術研究班	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究院・准教授
丸茂 美恵子	デジタルアーカイブ技術研究班	日本大学 芸術学部演劇学科・教授
才脇 直樹	デジタルアーカイブ技術研究班	奈良女子大学 生活環境学部・准教授
高橋 幸恵	デジタルアーカイブ技術研究班	
崔 雄	デジタルアーカイブ技術研究班	群馬工業高等専門学校 電子情報工学科・助教
尾鼻 崇	Web 活用技術研究班	立命館大学文学部、映像学部、先端総合学術研究科・非常勤講師同志社大学 人文科学研究・嘱託研究員

斎藤 進也	Web 活用技術研究班	立命館大学・非常勤講師
藤本 徹	Web 活用技術研究班	東京工芸大学・非常勤講師、東北大学大学院情報学環・助教、産学連携推進機構・主任研究員
Rockwell Geoffrey Martin	Web 活用技術研究班	アルバータ大学・教授

ポストドクトラルフェロー (PD)	
氏名	所属する班など
彬子女王	京都文化研究班
山本 真紗子	京都文化研究班
花田 卓司	京都文化研究班
前崎 信也	日本文化研究班、立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) PD
金子 貴昭	日本文化研究班
周 萍	日本文化研究班
石上 阿希	日本文化研究班
松本 文子	歴史地理情報研究班、日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員 PD
塚本 章宏	歴史地理情報研究班、立命館大学 PD
桐村 喬	歴史地理情報研究班、立命館大学 PD
赤石(河角) 直美	歴史地理情報研究班
Kingkarn Sookhanaphibarn	デジタルアーカイブ技術研究班
長谷川 恭子	デジタルアーカイブ技術研究班
李 亮	デジタルアーカイブ技術研究班、立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) PD

研究支援者 (RA)		
RA I 種		
氏名	所属する班など	所属・学年
齊藤 ちせ	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D3

加茂 瑞穂	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D3
Bincsik Monika	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D3
Worawat Choensawat	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 D3
Alejandro Toledo Nolasco	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 D3
Biligsaikhan Batjargal	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 D2
RA II種		
氏名	所属する班など	所属・学年
三上 聡太	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D3
高橋 伸城	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D2
二俣 希	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D1
Tothill Vanessa Katherine	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D1
飯塚 隆藤	歴史地理情報研究班	立命館大学大学院文学研究科 D2
Chulapong Panichkriangkrai	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 D1
玉井 未知留	Web 活用技術研究班	立命館大学大学院政策科学研究科 D2
RA III種		
氏名	所属する班など	所属・学年
瀬戸 寿一	歴史地理情報研究班	立命館大学大学院文学研究科 D3、 日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員 DC2
鹿内 菜穂	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 D2、 日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員 DC2
テーマ設定型博士課程後期課程大学院生		
氏名	所属する班など	所属・職名など
坂部 裕美子	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科 D2
山本 泰則	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 D2
大野 晋	Web 活用技術研究班	立命館大学大学院政策研究科 D4

研究支援者 (研究員・研究支援者)	
研究員	
氏名	所属する班など

倉橋 正恵	リサーチ・マネージャー
濱田 裕司	スタジオリーダー
研究支援者	
氏名	所属する班など
山路 正憲	研究支援者

学内研究協力者		
教員		
氏名	所属する班など	所属
佐古 愛己	京都文化研究班	立命館大学文学部・任期制准教授
桃崎 有一郎	京都文化研究班	立命館大学文学部・任期制講師
塚本 敏夫	日本文化研究班	立命館大学・非常勤講師
南部 裕樹	日本文化研究班	立命館大学・非常勤講師
矢野 健一	日本文化研究班	立命館大学文学部・教授
河原 典史	歴史地理情報研究班	立命館大学文学部・准教授
仲田 晋	歴史地理情報研究班	立命館大学大学院理工学研究科・准教授
花岡 和聖	歴史地理情報研究班	立命館大学文学部・助教
村中 亮夫	歴史地理情報研究班	立命館大学文学部・講師
Ross F. Walker	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学情報理工学部・教授
木村 文則	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学情報理工学部・助手
坂口 嘉之	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学総合理工学研究機構・チェアプロフェッサー
趙 國	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学情報理工学部・助手
土田 勝	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学情報理工学部・客員教授
西浦 敬信	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・准教授
森勢 将雅	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・助教

Frank Rinaldo	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科・教授
脇田 航	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学情報理工学部・助教
サイトウ・アキヒロ	Web 活用技術研究班	立命館大学映像学部・教授
院生・その他		
氏名	所属する班など	所属・学年
駒井 匠	京都文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・博士課程後期課程
田中 誠	京都文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・博士課程後期課程
滑川 敦子	京都文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・研究生
吉岡 直人	京都文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・博士課程後期課程
和田 慎太郎	京都文化研究班	立命館大学映像学部・3 回生
Daniel Sastre De La Vega	日本文化研究班	立命館大学先端総合学術研究科 D4
崔 栄柱	日本文化研究班	立命館大学大学院文学研究科・博士課程後期課程
本多 健一	歴史地理情報研究班	立命館大学大学院文学研究科 D4
渡邊 泰崇	歴史地理情報研究班	立命館大学文学部・実習助手
池永 雄大	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
井坪 将	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
梅田 旬人	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
大崎 隆比古	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
加藤 恒平	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
川崎 裕司	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
澤村 拓	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
嶋崎 秀幸	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
杉崎 義樹	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
竹久 修平	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2

道海 貴昭	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
中村 亮太	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
花房 成光	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M2
久木 貴博	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
廣瀬 貴志	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M3
福本 亮	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
村岡 流	デジタルアーカイブ技術研究班	立命館大学大学院理工学研究科 M1
片山 貴文	Web 活用技術研究班	立命館大学映像学部・4 回生
堀池 拓実	Web 活用技術研究班	立命館大学映像学部・4 回生

■研究叢書の公刊

2011年度は、研究叢書『シリーズ 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ』（バイリンガル版、ナカニシヤ出版、2008～）の第4冊～6冊、として、稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究とWeb技術』、木立雅朗、富田美香、松本郁代編『京都イメージ文化資源と京都文化一』、八村広三郎、田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』を刊行しました。

文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学) 監修
『シリーズ 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ』（ナカニシヤ出版刊）

[第1冊] 川嶋將生・赤間亮・矢野桂司・八村広三郎・稲葉光行著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』（2009年3月）

[第2冊] 赤間亮・富田美香編『イメージデータベースと日本文化研究』（2010年3月）

[第3冊] 矢野桂司・中谷友樹・河角龍典・田中覚編『京都の歴史 GIS』（2011年3月）

1-3 教育

■学位論文テーマ設定型入試

本拠点では、DH分野のテーマで学位論文を執筆する博士課程後期課程の大学院学生を募集してきました。本入試を経て、入学した大学院学生は文学研究科、政策科学研究科、先端総合学術研究科、理工学研究科のいずれかに所属して、本拠点の研究プロジェクトに参加しながら、学位論文執筆に取り組むことができます。また、奨学金や海外研究活動支援などに応募することができます。

2011年度も春と秋の2回本入試を実施し、4月に2名、9月に1名が本入試により入学しました。

テーマ設定型入試による入学者数

2007年9月	2008年4月	2008年9月	2009年4月	2009年9月	2010年4月	2010年9月	2011年4月	2011年9月
2名	3名	1名	5名	1名	5名	0名	2名	1名

「テーマ設定型」博士後期課程大学院生 在籍数

	2007年度		2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1回生	2	5(2)	4(2)	6(3)	6(4)	6(1)	5	2(1)	3(2)	
2回生	0	0	2	5(2)	4(2)	6(3)	6(4)	6(1)	6(1)	
3回生	0	0	0	0	2	5(2)	4(2)	6(3)	6(3)	
4回生	0	0	0	0	0	0	1	2	2	
総数	2	5(2)	6(2)	11(5)	12(6)	17(6)	16(6)	17(6)	17(6)	

※ () 内は留学生

また、今年度は、本入試による博士課程後期課程大学院生6名(9月に1名、3月に5名)が、博士論文

を提出しました。

■日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム

本拠点では、大学院レベルの教育プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム」を開講しています。本プログラムの修了年限は2年間で、高度な情報技術の人文科学分野への応用を実践的に習得する「デジタル・ヒューマニティーズ科目」を中心に、海外における日本文化研究の動向をテーマとした「海外日本文化研究科目」やGCOEセミナーでの発表、基礎講座やシンポジウムへの参加、あるいは、国内外の学会での報告や海外での研究実習によって構成される分野横断型の教育プログラムです。本プログラムの修了時には日本文化DH修了証書が授与されます。学内の大学院学生のみならず、学外の社会人の方も受講可能です。

2011年度受講生は、5名で、このうち、後期に2名が、本教育プログラムを修了しました。

■GCOEセミナー

本拠点では、隔週火曜日の18:00～19:30に公開の定例セミナーを開催しました。このセミナーは拠点の若手研究者が中心となって運営するもので、彼ら/彼女らの日頃の研究成果の発表を軸に、国内外のデジタル・ヒューマニティーズ分野の優れた研究者や日本文化研究者をゲストスピーカーに迎えた講演など、多彩な企画のもとに開催しました。また、衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパス(BKC)を中心に、国内外へのインターネット遠隔地講義システムの運用も併せて行うなど、本拠点の活動の主要な成果発信の場ともなりました。

今年度は、定例17回、番外3回、特別2回の合計22回のセミナーを開催しました。詳細は、「2.3 GCOEセミナー」の項をご覧ください。

■若手研究者の公募

ポストドクトラルフェロー(PD)や研究支援者(RA)の制度など、デジタル・ヒューマニティーズ分野の優秀な若手研究者を教育的、経済的に支援する充実したシステムが本拠点の大きな特色になっています。

●研究支援者(RA)制度(博士課程後期課程大学院生対象、4月・10月着任)

本拠点では、研究プロジェクトに参加し、学位取得を目指している博士課程後期課程の大学院生を研究支援者(リサーチアシスタント、RA)として雇用してきました。本拠点のRAは、テーマ設定型入試で入学した博士課程後期課程大学院生を対象としたRA1(2009年度入学までを対象)をはじめ、雇用形態により4種に分かれています。

●ポストドクトラルフェロー(PD)制度(4月・10月着任)

本拠点では、学位を取得した若手研究者をポストドクトラルフェロー(PD)として研究メンバーに迎えてきました。本拠点のPDには、拠点が雇用する「拠点PD」、日本学術振興会(JSPS)の特別研究員(PD)、その他、学内の諸制度により任用されているPDの3種があります。PDは研究プロジェ

クトに参加し、自らの研究を深めるとともに、研究者としての経験を積んでいます。

RA・PD 在籍数

	2007年度	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
RA1	2	4(2)	4(1)	9(4)	10(5)	9(5)	8(5)	6(4)	5(4)
RA2	4	7	8	5	4	6	6	6(1)	7(2)
RA3	3	3	3	2	2	2	1	2	2
RA+	1	0	2(2)	0	1(1)	0	(1)	0	0
RA 総数	10	14(2)	17(3)	16(4)	17(6)	17(5)	16(6)	14(5)	14(6)
拠点 PD	4(2)	8(2)	9(2)	10(3)	10(2)	11(1)	10(1)	8(2)	8(2)
JSPS PD	1	1	2	1	1	1	2	1	1
その他 PD	0	1(1)	1(1)	2	4(1)	4(1)	5(1)	5(1)	5(1)
PD 総数	5(2)	10(3)	12(3)	13(3)	15(3)	16(2)	16(2)	14(3)	14(3)
PD・RA 総数	15(2)	24(5)	29(6)	29(7)	32(9)	33(7)	32(8)	28(8)	28(9)

※ () 内は留学生

この他、本拠点所属の若手研究者は、JSPS の「若手研究者国際・トレーニング・プログラム (ITP)」(中長期の在外研究支援制度) や組織的な若手研究者等海外派遣プログラム (大航海プログラム)、拠点独自の「日本文化 DH 若手研究者助成金」「日本文化 DH 若手研究者海外研究活動助成金」などに応募することができます。